

今月の本人 丹野智文さん(宮城県支部)・山本きみ子さん(富山県支部)



「認知症」国家戦略に向けてのヒアリング

老健局長、
室長と面談

厚労省から「オレンジプランに代わる新たな戦略策定」に向けて、認知症のご本人やその家族から意見を聞きたいと、申し入れがあり、同省の会議室でヒアリングが行われました。老健局からは三浦公嗣老健局

長、水谷忠由認知症対策室長らが出席。「家族の会」からは、宮城県支部の丹野智文さん、富山県支部の山本きみ子さん、それぞれのご家族、勝田登志子副代表、阿部佳世事務局長の6人が参加しました。

社会と関わりをもって希望を持って生きたい

最初に丹野さんが発言し、「39歳で認知症と診断された時、何もできなくなるのか？仕事は？生活は？何も分からず恐怖と不安の中にいた。診断された時にまず何をすれば良いか分からなかったので、認知症について学べる場があれば安心できる。役所でも受けられる支援がワンストップで分かるようにしてもらいたい。若年の場合、子どもが成人するまで何かしら保障があると助かる」と訴え、「そんな時『家族の会』と出会い、病気とともに明るく生きようと思えてきた。不安でなく、生きていくには、社会と関わりをもっていることが大切だと思っている」と、話しました。丹野さんのお母さんは「まさか息子が認知症になるなんて！納得できなかった。この子を殺して私も死んでしまえばと思ったこともありました。今では、たくさんの人に出会い、私も息子を支えて一緒にがんばろうと思っている」と話され、一同涙に暮れる場面もありました。

山本さんは、「6年前に認知症と診断され、その後2年間は介護施設で働いていた。認知症になってもすぐに機能が落ちていくわけ

はなく、初期のころはできることの方が多い、役に立ちたいと思っている。今はカフェを主人と一緒に楽しんでやっている」と話され、ご主人は、「同じ病気をもっている人、家族が集団生活できる所があると良いのに。廃校になった学校などを利用して。一人暮らしの不安も除かれ、お互いの生活を支えるために役割もでき社会との関わりもできるのでは」と提案されました。

これらの意見に対し局長は、「認知症の人に優しいまちは、すべての人に優しいまちになっていくのだと考えています」と応え、最後に丹野さんが「たくさんの人が、認知症について考えてくれることが希望につながる。希望を持って生きられるようにしてもらいたい」と要望してヒアリングを終えました。

(事務局長 阿部佳世)



左から丹野さん母子、山本さん夫妻、勝田副代表、手前から水谷室長、三浦局長

情報 コーナー 交流の場

(詳細は各支部まで)

宮城●2月5日・19日(木) 午前10:30～午後3:00／翼のつどい→泉社会福祉センター
山形●2月25日(水) 午後1:30～3:30／山形本人のつどい→篠田総合病院
埼玉●2月25日(水) 午前11:00～午後1:00／若年のつどい・大宮→地域包括センター諏訪の苑
神奈川●2月21日(土) 午前11:00～午後3:00／若年期よこすかのつどい→市立総合福祉

会館
富山●2月7日(土) 午後1:30～3:30／てるてるぼうずの会→サンフォルテ
岐阜●2月15日(日) 午前11:00～午後3:30／各務原市のつどい→ニッケかかみ野苑
●2月22日(日) 午前11:00～午後2:00／岐阜市のつどい→アルト介護センター長良
愛知●2月14日(土) 午後1:30～4:00／元氣かい→しあわせ村
滋賀●2月11日(水・祝) 午前10:00～午後2:00／ピアカウンセリング→成人病センター職員会館

鳥取●2月28日(土) 午前11:00～午後3:00／東部にっこりの会→鳥取市・コトリ舎
広島●2月7日(土) 午前11:00～午後3:30／陽溜まりの会東部→福山すこやかセンター
●2月14日(土) 午前11:00～午後3:30／陽溜まりの会広島→中区地域福祉センター
福岡●2月4日(水) 午前10:00～午後0:30／あまやどりの会→福岡市市民福祉プラザ
熊本●2月7日(土) 午後1:00～3:00／若年期認知症のつどい→県認知症コールセンター